

主な出来事

【内政】

●大統領の所信表明演説

【外政】

●新日本大使及び新ベトナム大使の信任状捧呈

●ズマ南ア大統領, ボツワナを訪問

●ボツワナ, ロヒンギャ族に対する対応でミャンマーを非難

●SADC政治・防衛・安全保障オーガニトロイカ及びSADC議長国による閣僚会合の開催

●カーマ大統領のムガベ・ジンバブエ大統領に対する公開書簡

●カーマ大統領, 新ジンバブエ大統領就任式出席のためジンバブエを訪問

●カーマ大統領, 新ケニア大統領就任式出席のためケニアを訪問

【経済】

●燃料小売価格の値上げ

●ボツワナ電力公社, 8000人の雇用を創出する送電網整備プロジェクトを開始

●ボツワナ, Doing Business ランキングにおいて順位低下

【文化】

●日本映画祭の開催

【内政】

○ BMD代表, 辞任の意向

野党ボツワナ民主運動党(BMD)のピラーネ代表は、代表を辞任し党代表選挙をやり直す意向である旨述べた。野党連合「民主改革のためのアンブレラ(UDC)」のドゥマ・ボコ代表はBMDが野党連合に留まる条件として、BMD分裂の契機となった7月のBMD党大会をやり直し、再び党代表選挙を行うよう求めている。(3日:ボツワナ・ガーディアン紙)

○ 大統領の所信表明演説

6日、国民議会においてカーマ大統領による所信表明演説が行われた。同大統領は2018年に大統領を退任するため、これが最後の所信表明演説となる。所信表明演説では様々な分野におけるこれまでの功績と今後の課題・目標等について言及された。(6日:デイリー・ニュース紙)

○ 新党AP, 国民議会議長に野党連合脱退を正式に報告

野党民主運動党(BMD)から分離し新たに結成された革新連合党(AP)は、コクルウェ国民議会議長に対し、AP結成により野党連合「民主改革のためのアンブレラ(UDC)」から正式に脱退した旨報告した。(当館注:これにより、AP及びUDCの保有議席はそれぞれ6議席、11議席となった。)(16日:メヒ紙)

○ 2018年3月、カーマ大統領の退任式

カーマ大統領の退任式が2018年3月16, 17日に実施される予定であることが明らかになった。周辺国からは南アの与党ANC, ジンバブエの与党ZANU-PFが出席する見込み。退任に伴い、数々のイベントが実施される他、カーマ大統領は地方を巡りコトラ(当館注:地方で行われる部族の伝統的な会合)に出席し退任の挨拶を行う予定。(25日:ウイークエンド・ポスト紙)

○ 公務員による各政党予備選投票の禁止

控訴審は、公務員による各政党予備選挙における投票を認めない旨の第2審判決を下した。2013年、モラレ大統領府首席次官(当時)は、公務員の政治活動への積極的参加を禁ずる公務員法に従い、公務員による各政党予備選挙への投票を禁じたが、これを不服とする公務員労働組合(BOPEU)により起訴されていた。第一審では投票を認める判決が下されたが、政府は上告し、今回の判決に至った。なお、国民議会総選挙における公務員の投票行為は認められている。(25日:ウイークエンド・ポスト紙)

【外交】

○ カーマ大臣、UNWTO会議出席のためスペインを訪問

カーマ環境・天然資源保護・観光大臣は国連世界観光機関(UNWTO)主催の会議に出席するためスペインを訪問している。リファイUNWTO事務局長は7月にボツワナを訪れ、オカバンゴ・デルタを視察した他、ボツワナ大学にて講義を行っていた。カーマ大臣は、この後に独を訪問し、3月に実施されたベルリン国際ツーリズム・マーケット展(ITB Berlin)で独との間で合意された観光関連協力のフォローアップを行う。(1日:デイリー・ニュース紙)

○ 新日本大使及び新ベトナム大使の信任状捧呈

9日、竹田新日本大使及びズン新ベトナム大使はカーマ大統領を往訪し信任状を捧呈した。インタビューに対し、竹田大使は、ボツワナの経済多角化及びSADC地域の発展に向け今後も支援を継続する旨及び二国間関係の更なる深化に向けて全力を尽くす旨語った。ベトナム大使は南アに駐在する。(13日:デイリー・ニュース紙)

○ ボツワナ、日本との深い結束

日本大使館及びJICAはプレス・ツアーを開催し、ボツワナにおける日本の開発協力を紹介した。1992年に最初の青年海外協力隊員がボツワナに派遣されて以来、300名以上の隊員が派遣されている。この他日本大使館は、草の根・人間の安全保障無償資金協力等でボツワナの現地NPOに対して支援を行い様々な事業を実施している。(14日:デイリー・ニュース紙)

○ ズマ南ア大統領、ボツワナを訪問

17日、ズマ南ア大統領は、南アとボツワナとの間で毎年開催される二国間協議(Bi-National

Commission: BNC)に出席のため、ボツワナを訪問した。同大統領の訪問に先駆け、14、15日には政府高官による会合、16日には両国外相を共同議長とした閣僚会合が開催され、36に及ぶ合意文書とMOUが交わされた。(14～20日:デイリー・ニュース紙)

○ **ボツワナ、ロヒンギャ族に対する対応でミャンマーを非難**

ボツワナ政府は、ミャンマーにおけるロヒンギャ族に対する人道危機に対して懸念を表明した。ボツワナ政府は、ミャンマー政府に対し、現在ロヒンギャ族に対して行われる暴力の早期中止、人権と法の支配の徹底及び難民の帰還を求めた。(15日:デイリー・ニュース紙)

○ **ボツワナ政府、ジンバブエへの渡航自粛を喚起**

15日、ボツワナ外務国際協力省は、(国軍が政権交代を求め大統領を自宅監禁した)ジンバブエ情勢を受け、当面の間、ジンバブエへの渡航を自粛するよう国民に喚起した。(16日:デイリー・ニュース紙)

○ **ボツワナ政府、ジンバブエ情勢を静観**

15日、ボツワナ政府は閣議を開き、ジンバブエ情勢に関し現状を見守る方針を決定した。(16日:メヒ紙)

○ **日本政府、ボツワナNGOに7万9千ドルの無償資金協力**

日本政府の支援で児童保護カウンセリングセンターを整備したNGO法人チャイルドラインは、日本に対して感謝の意を伝えた。同NGOは2011年に日本政府の草の根・人間の安全保障無償資金協力により約7万9,000ドルの支援を受けていた。現在、同センターにはJICA青年海外協力隊員がソーシャルワーカーとして勤務し、ボツワナの児童福祉向上に貢献している。(17日:ボツワナ・ガーディアン紙)

○ **SADC政治・防衛・安全保障オーガントロイカ及びSADC議長国による閣僚会合の開催**

16日、SADC政治・防衛・安全保障オーガントロイカ及びSADC議長国による閣僚級会合が開催され、民主的に選ばれた政府を違法に廃止することに関連するAUの Constitutive Act 及びSADCの民主的な原則に係るSADCの義務等を再確認し、緊急特別首脳会合の開催を決定した。(当館注:21日に行われた首脳会合では、ジンバブエの政治状況に対する懸念が確認され、SADC議長であるズマ・南ア大統領及びSADC政治・防衛・安全保障オーガン議長であるロウレンソ・アンゴラ大統領による調査団派遣が決定されたが、ムガベ・ジンバブエ大統領の退任を受けて、翌22日には同調査団の派遣は見送られた。)(17日:デイリー・ニュース紙, メヒ紙)

○ **カーマ大統領、AU副委員長と面会**

20日、ボツワナを訪問しているカーティAU副委員長はカーマ大統領を表敬した。AU副委員長は、

ボツワナの教育システム及び安定した政治を賞賛した上で、カーマ大統領に対し、来年にボツワナで予定される政権移行はアフリカにおける平和と安定の道標となる旨述べた。(21日:デイリー・ニュース紙)

○ **カーマ大統領のムガベ・ジンバブエ大統領に対する公開書簡**

22日、デイリー・ニュース紙は、カーマ大統領からムガベ・ジンバブエ大統領に宛てた公開書簡を掲載した。同書簡でカーマ大統領は、ジンバブエ与党ZANU-PFが大統領の弾劾手続きを進めていることを理由に、ムガベ大統領に対して自ら辞任するよう求めた。(22日:デイリー・ニュース紙)

○ **ボツワナ政府、ジンバブエへの渡航自粛を解除**

ボツワナ政府は、ジンバブエ情勢に伴い国民に喚起したジンバブエへの渡航自粛を解除した。ボツワナ政府は、同通報の中で、ムガベ・ジンバブエ大統領の辞任を歓迎し、ジンバブエの民主化に向け支援する用意がある旨言及した。(23日:デイリー・ニュース紙)

○ **カーマ大統領、新ジンバブエ大統領就任式出席のためジンバブエを訪問**

24日、カーマ大統領は、ムナンガグワ新ジンバブエ大統領就任式に出席のため、ジンバブエを訪問。ムナンガグワ氏は、与党ZANU-PF内で起きたムガベ前大統領との党内闘争を経て、大統領に就任する。(24日:デイリー・ニュース紙)

○ **ベンソン＝モイトイ外相、EU・アフリカ首脳会議に出席**

29、30日、ベンソン＝モイトイ外務国際協力大臣はボツワナ政府代表としてコートジボワールで開催される第5回EU・アフリカ首脳会議に首席する。会議のテーマは「包括的成長と持続可能な開発のための若者への投資」。同大臣は、この後にベルギーを訪れ、アフリカ・カリブ海・太平洋(ACP)諸国会議に出席する予定。(28日:デイリー・ニュース紙)

○ **カーマ大統領、新ケニア大統領就任式出席のためケニアを訪問**

28日、カーマ大統領はケニアを訪問し、ケニヤッタ新大統領の就任式に出席する。ケニヤッタ大統領は、10月26日に実施された再選挙で750万票以上を獲得。(人権活動家から同選挙に異議申し立てがなされていたが)20日、ケニア最高裁はケニヤッタ大統領の勝利を認める判断を下した。(29、30日:デイリー・ニュース紙)

【経済】

○ **ボツワナの主要経済指標**

1) **経済成長率(出典:ボツワナ統計局)**

2017年第2四半期の経済成長率は、前期比1.9%(2017年第1四半期の経済成長率は、前期比0.2%)。

2)インフレ率(出典:ボツワナ銀行)

2017年10月は3.0%(2017年9月は3.2%)。

3)為替レート(出典:First National Bank of Botswana)

2017年11月30日

1プラ=0.094米ドル

1プラ=1.270南ア・ランド

1プラ=10.67円

2017年10月31日

1プラ=0.093米ドル

1プラ=1.282南ア・ランド

1プラ=10.57円

○ ダイヤモンド産業

1)デビアス社のダイヤモンド原石売上の増加

アングロ・アメリカン社はデビアス社の第9期におけるダイヤモンド原石の売上が4億5500万米ドルを記録したと発表した。クリーバー・デビアス社 CEO は、前期にはダイヤモンド原石売上が低下したが、第9期ではクリスマスシーズンを前に小売注文が増加し、顧客からの需要が増加した旨発言した。(17日:ウイークエンド・ポスト紙)

○ エネルギー・資源

1)燃料小売価格の値上げ

ボツワナ・エネルギー規制機関(BERA)は、1日からガソリン、ディーゼル、灯油等の燃料小売価格を1リットル当たり20ペベ値上げすると発表した。同発表によると、燃料小売価格の値上げは主に国際原料価格の上昇によるもの。(1日:デイリー・ニュース紙)

2)中国企業、モルプレB石炭火力発電所に係る提案書を提出

中国企業 China Machinery Engineering Corporation (CMEC)は、600MWのモルプレB石炭火力発電所1~4号機をボツワナ電力公社(BPC)から購入するための提案書を提出した。シュワルツァイツァーBPC最高責任者(CEO)によると、同提案書に係る評価は約10日間で完了し、公的調達資産処理委員会、省庁及びBPCで協議された後、年末までにはCMECとの交渉を完了する予定。交渉がまとまれば、来年2月または3月にはモルプレB石炭火力発電所をCMECに引き継ぐ。(3日:メヒ紙)

3)ボツワナ電力公社、8000人の雇用を創出する送電網整備プロジェクトを開始

ボツワナ電力公社(BPC)は、送電網を北西地区、チョベ地区及びハンツィ地区に送電網を拡張する46億プラ規模の北西送電網整備プロジェクトを開始する。同プロジェクトの建設期間に200

0人以上の雇用を生み出し、送電網の整備が完了すれば、様々な分野で約8000人の雇用を創出する見込み。同プロジェクトは2フェーズに亘って実施され、第1フェーズは2018年1月から2019年12月にかけて実施される予定。(18日:ウイークエンド・ポスト紙)

○ ボツワナ, Doing Business ランキングにおいて順位低下

1日, 世界銀行が発行する国内の事業環境や生産性による経済競争力を示す「Doing Business 2018年報告書」が公表され, 同報告書の中でボツワナは, 順位付けの元となるポイントが昨年よりわずかに上がったものの, 昨年の71位から81位に低下した。(2日:メヒ紙)

○ ボツワナ電信公社, 韓国テレコムとネットワーク改変に係る協定を締結

ボツワナ電信公社(BTCL社)は, インターネットサービスを改善するためのネットワーク改変計画において韓国テレコムと協定を結んだ。同計画は, より高速で安定したインターネット環境に対する市場の需要に応じて行われるものであり, ハボロネ, フランシスタウン, マウン及び国内の他地域で12か月間にわたり実施される。(28日:デイリー・ニュース紙)

○ ボツワナ中央銀行による新10プラ札の導入

27日, ボツワナ中央銀行は来年2月から新10プラ札を導入すると発表した。新10プラ札は現在国内で使用されている10プラ札と同じ色でほぼ同じデザインとなるが, より長持ちするポリマー製の紙幣であり, 偽札との判別に係るセキュリティ機能も改善された。(29日:デイリー・ニュース紙)

【文化】

○ 日本の生徒, 文化交流でマウンの高校を訪問

日本の立命館慶祥高校の約40名の生徒はマウン高校を訪問し, 伝統的な踊り, 歌, スポーツなどの文化交流を行った。モフベ北西地区教育局長によると, 両校の交流は訪問した生徒にボツワナの教育環境を理解し, また当地の生徒には日本文化を理解する機会となる旨発言した。(9日:デイリー・ニュース紙)

○ 映画で見る日本の文化

在ボツワナ日本大使館は, 今週リバーウォークショッピングモールのニュー・キャピトルズ・シネマにおいて近代的な日本の文化が分かる第9回年次映画祭を開催する。22日, 同映画祭は竹田新大使によって開会された。日本大使館の広報文化班のモケティ職員によると, 同映画祭は毎年特定のテーマに沿って開催され, 今年は若者の愛のテーマの下で5種類の映画を無料で上映する。(24日:ボツワナ・ガーディアン紙)